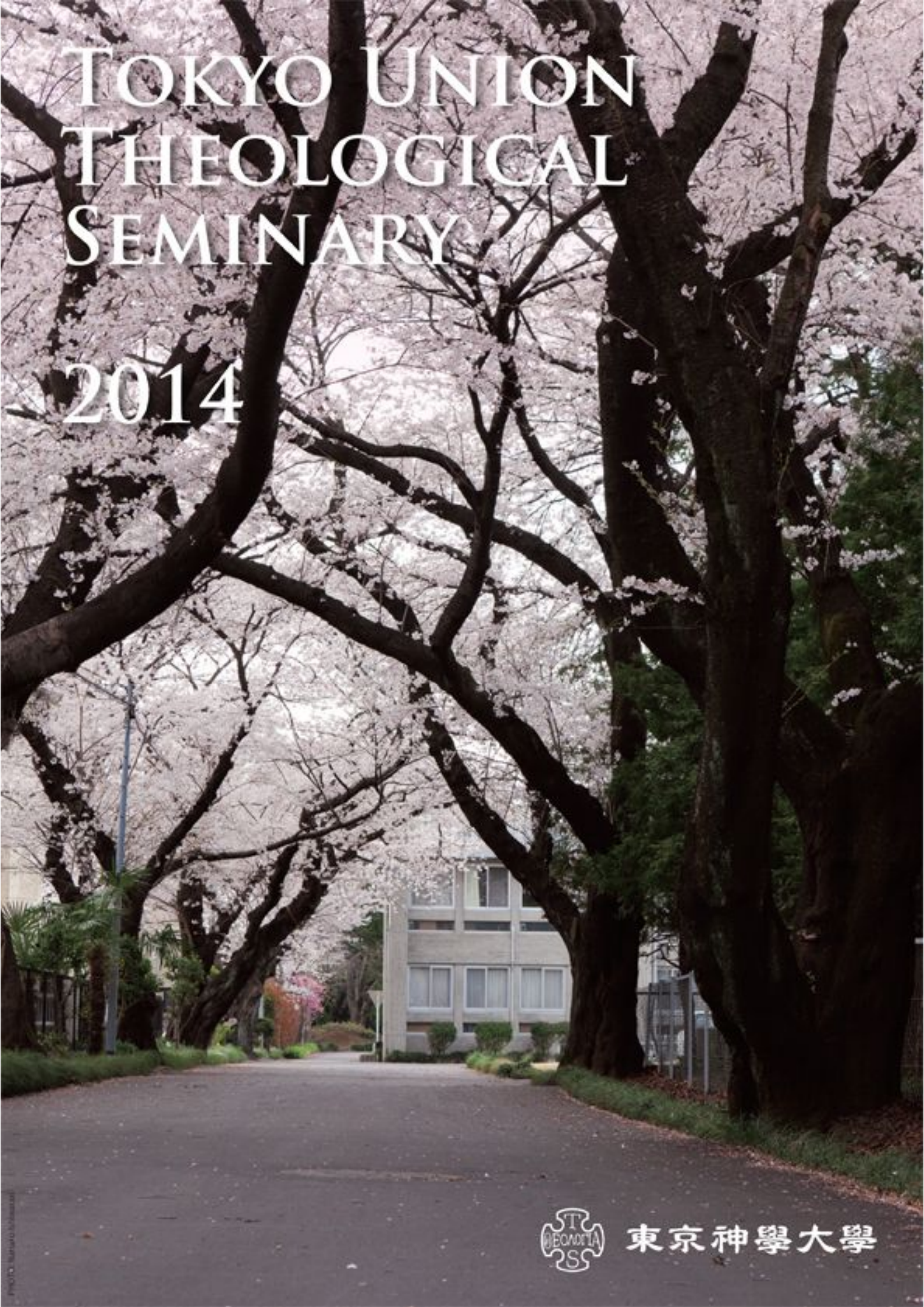
Tokyo Union Theological Seminary

2014



東京神學大學

世界を根底から変革し救うために

東京神学大学学長
芳賀 力

「収穫は多いが、働き手が少ない」
（ルカによる福音書 10：2）

主イエスは72人の弟子たちを選んで、ガリラヤの町や村に二人ずつ遣わしました。それはすべてこれからご自分が訪ね歩くつもりの場所でした。そしてどこかの家に入ったら、「この家に平和があるように」（ルカ10:5）言いなさいと命じました。私たちの日本、そこがガリラヤです。今この国の家々に本当に平和があるでしょうか。争いやいがみ合いばかりで、もうとっくに崩壊しているというのに、辛うじて体裁だけを保っているのではないでしょうか。だからこそそこに平和の福音を携えて遣わされてゆく者が必要なのです。生活再建の場に福音が介在しなければなりません。

キリスト教の福音は民族の垣根を越え、国家の壁を越え、歴史の星霜を越えて、全世界に及ぶに至りました。そのようにして建てられた教会は、神が今も全世界に関わろうとしておられる救いの歴史を具体的に担っている場です。しかしそこには働き手がいなければなりません。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」（10:2）。

東京神学大学は日本基督教団立の神学校ですが、広く門戸を開いています。国際水準を維持するように最先端の神学を提供すると共に、教会とキリスト教学校に仕える働き人を送り出しています。今こそ御言葉がこの閉塞した日本社会に語り出されねばなりません。世界を根底から変革し救うために。主があなたの出番を待っています。

PHOTO: Naoko Ishiwatari

HISTORY

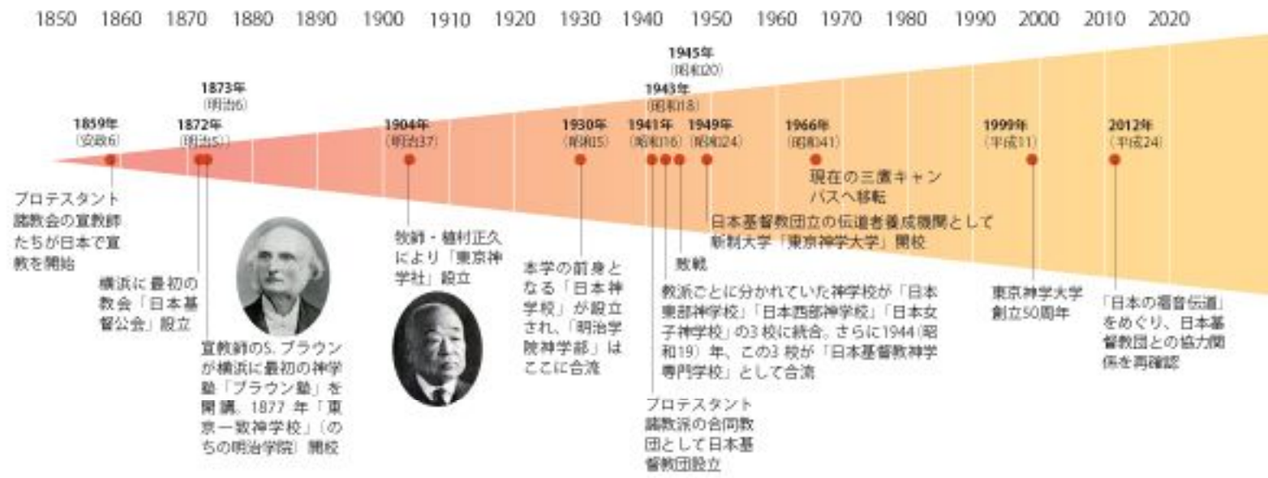
「日本の教会と神学校はなぜ合同したがるのですか?」これは十年ほど前本学を訪問した韓国の一神学大学の学生たちが、本学に合流した多様な旧教派神学校の系統図を見て発した驚きの問いです。一つの答えは様々な教会合同運動（エキュメニズム）を主動機とし、教派を建設する動機も絡み織りなすドラマ――これが歴史的に見た日本伝道のシナリオと言えましょう。

三段跳び式に言えば、ホップ段階の明治初期、信仰復興の福音を伝えた日本基督公会という19世紀の合同運動が、教派形成と対抗して移植されました。宣教師ブラウンの神学塾は本学の遠く遙かなる一源流です。

ステップ段階は、20世紀エキュメニズムの日本基督教連盟をエンジンとした教派の協力合同運動の時期です。この頃二つの神学教育機関、東京神学社と明治学院神学部が合同し、日本神学校が誕生しました（1930年）。

このステップの上に、第二次世界大戦時の国家による宗教団体法の超突風も加わり、当時のプロテスタント30余派は多教派間合同教会、日本基督教団へジャンプしました（1941年）。この教団の教職養成校、日本東部および西部神学校、日本女子神学校が合同した日本基督教神学専門学校（1944年）を経て、戦後の1949年に新制東京神学大学が誕生したわけです。

以来、聖書と歴史的な信仰告白の資産を継承し、「教団信仰告白」を規準とした、健全な福音の伝道と諸教会に開かれた神学教育、教団形成の更なるジャンプに努める神学大学――これが本学の基本姿勢です。



ギュツラフ訳ヨハネ伝

1960年代の牟礼校舎

カルヴァンの『キリスト教綱要』 ジュネーブ

東京神学大学の諸活動

【公開夜間神学講座】
1947年以来、信徒、役員、教会学校教師の教育のために、本学の教授を中心としたすぐれた講師陣による公開夜間神学講座が行われています。日本基督教団銀座教会にて、毎週月・金曜日に開講されています。

【東京神学大学総合研究所】
総合研究所は、日本伝道研究所とアジア伝道研究所から成る学術的な共同研究の拠点です。それぞれ講演会、セミナー、研修旅行等を実施しています。

【刊行物】
左記の総合研究所からは、研究論文や講演を載せた『伝道と神学』が毎年刊行されます。その他、神学雑誌『神学』、東神大パンフレットなどを刊行しています。特に東神大パンフレットは、諸教会における信徒教育のテキストとしても広く用いられています。

EDUCATIONAL CHARACTERISTICS

全員が伝道者を目指す“召命共同体”

東京神学大学は、「召命共同体」です。「召命」とは、神さまの召し、呼びかけということです。つまり、ここで学び、教える者すべてが、何か自己実現を目指すのではなく、神さまの招きと呼びかけに応えて神学の学びを志し、将来伝道者となるという決断を与えられたということです。入学に際しては、皆さんが神さまに召されているかどうか、つまり「召命」の有無を問われることになります。

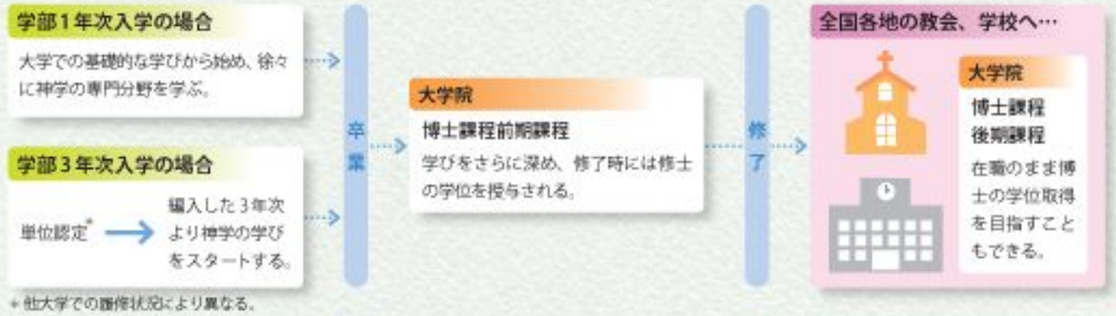
教会による教会のための合同神学校

東京神学大学は、1949年に日本基督教団立の新制大学としてスタートしました。しかし、そこに至るまでの歴史は古く、明治初期のブラウン塾に端を発し、多くのプロテスタント諸教派の神学校が合流してできた合同神学校（ユニオン・セミナリー）です。神学教育機関として各神学校の伝統を引き継ぎつつ、日本のプロテスタント諸教会が総力を注いで育んだ高度な神学教育を提供しています。
そのために、東京神学大学は「教会による、教会のための大学」と呼ぶことができます。卒業生の大半は、教会やキリスト教主義学校に奉仕する伝道者になります。また、神学生の必要経費の約半分は、全国の諸教会の献金で支えられています。

教会だけでなくキリスト教学校を通して伝道する

キリスト教学校に派遣されて若い魂に福音を語ることも、“伝道者”や“牧師”の働きです。本学の大切な使命の一つとして、プロテスタントのキリスト教主義中学校、高等学校における宗教科・聖書科の教師（教務教師）を養成することも挙げられます。本学では、通常の神学教育プログラムと並行して教育職員免許状取得のための課程があり、これまでも多くの教師を送り出してきました。彼らの学校での働きの中からも、次世代を担う多くの受洗者、献身者が起こされています。

大学院まで一貫したプログラム



＊他大学での履修状況により異なる。

学部１年からは６年間 学部３年からは４年間

キリスト教の伝道者として整えられるためには、充実した学びが必要です。本学では、学部から大学院までを一貫した神学教育プログラムとして提供しています。このため、ほとんどの学生が、学部１年から入学した場合は、学部４年間と大学院２年間の計６年間、学部３年から編入学した場合（大学卒業者の場合）は、学部２年間と大学院２年間の計４年間かけて神学を学びます。

教育職員免許状（宗教）の取得が可能

本学の教職課程は 1954 年に設けられ、今日まで多くの優れた聖書科教師を輩出してきました。免許状は、教会付属幼稚園の園長となる際にも有効に用いられています。さらに、免許状を取得した卒業生の多くは、教会と良い関係を築き上げ、伝道に貢献するだけでなく、キリスト教教育を通して、公教育にも貢献してきました。本学の教職課程は、キリスト教主義学校において教育と伝道の業に励みつつ、建学の精神を実質的に担う教師を養成することを目標としています。

- 中学校教諭一種免許状（宗教）
- 高等学校教諭一種免許状（宗教）
- 中学校教諭専修免許状（宗教）
- 高等学校教諭専修免許状（宗教）

神学の学びと教会生活の両方で伝道者として整えられる

本学は「神学校と教会は車の両輪である」という理念を掲げています。そのため神学生にとって教会生活は、大学での学びと並行する重要なものです。神学生はそれぞれの出席教会の礼拝に加わり、奉仕し、交わりの時を持ちつつ、牧師の指導のもと、教会に仕えることを学びます。さらに、神学校のプログラムとして学部４年次、大学院１年次に「夏期伝道実習」があり、全国各地の教会に遣わされて約４週間の伝道実習を体験します。

博士課程後期課程に長期履修学生制度を新設

長期履修学生制度は、博士課程前期課程を修了し、後期課程に進学する方々のために、2012 年度に設けられました。標準修業年限（3 年）を超え、一定の期間にわたり計画的に後期課程での学び・研究をすることができ、牧師や教務教師として在職のまま博士の学位取得を目指すことが可能です。

開かれた学び　一般時間

火曜日午前 10 時半からの一般時間には、外部から著名な講師を招いての講演会、本学の教員によるフォーラム、さらには学生会の総会や懇談会など、年間を通じて多彩なプログラムが計画されています。全学生が、神学と諸学の学び、学生生活を共有する貴重なひとときです

その他の特徴

神学専門図書館

東京神学大学の神学専門図書館は、古今東西のキリスト教文献およそ10万冊（洋書約6万冊、和漢書など約4万冊）を収蔵し、アジア屈指の質量を誇っています。学内のみならず、学外の研究者にも広く利用されています。

徹底した少人数教育

学部および大学院の在籍学生数は120名前後で、教師と学生の比率はおよそ1：9。この恵まれた環境の中で、教師と学生はお互いに深く知り合い、交わりながら共に学びます。

留学生

全学生のうち約5%が留学生で、主に韓国の出身者が多くを占めます。「母国だけでなく、日本で伝道したい」という彼らの熱意は、日本人学生にも大きな刺激となっています。

聖書の成立を知り、解釈を学ぶ

聖書神学

●聖書に、何が伝えられているのか

聖書学/ 聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によってたてられた説教者が、聖書に基づいて語るときに、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証しするキリスト御自ら語ってくださいます。

●勝手な読みこみを批判し、吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読みこみと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学/ 聖書神学は、聖書のテキストを、それが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し、吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。

●「旧約聖書釈義」の授業紹介

聖書を歴史のコンテキストの中で読む面白さを学びます。

「旧約聖書釈義b」は釈義について学ぶ授業です。釈義とは、聖書を読み、聖書がわたしたちに何を伝えようとしているのか、を様々なアプローチで考察、決定することです。いわば、説教の土台ともいえる重要な学びです。

授業ではそれぞれのアプローチについて、また何故、このアプローチが有効なのかを、学生が発表します。そして、大住先生による学生への質問や解説が行われてより学びを深めています。

神学校の学びが実際に牧師となったときにどのように役立つのか、何故、神学を学んでいるかを実感できる授業です。

2013年度 学部4年 安藤果菜

神の真理を総合的に明らかにし、神讃美へと至る

組織神学

●教義学を中心に、倫理学、弁証学の三分野から成る

組織神学は、神の恵みの真理をできる限り深く解明し、それを責任的に証言しようとする学問です。「教義学」は、神の啓示を証言する聖書に基づき、父・子・聖霊なる三位一体の神とその御業を、体系的、組織的に考察します。「倫理学」は、キリスト者と教会が具体的な生活の場でどのように振る舞い行動すべきなのかを考察します。そして「弁証学」は、現代社会にあってキリスト教に向けられるあらゆる疑問に対して、福音の真理を明証しようとするものです。組織神学は、それら相互の関連を総合的な見地から明らかにし、一貫した整合的理路を見出そうとするものです。

●教会とキリスト者を支えて、神を讃美する

神学は人間の業ですから、誰が試みた神学も完全ではありません。常に「より深く、より明らかに」祈りをもって神の真理を解明し続ける旅人の神学です。そのようにして人類に、「世の光」としての神の真理を伝え、教会とキリスト者の信仰を支え、神の御名を讃美します。組織神学は知的興奮が神讃美に至る素晴らしい学問です。

●「組織神学」の授業紹介

現代社会に福音をどう宣べ伝えるかという課題を掘り下げます。

組織神学Ⅱbの授業では、キリスト者として社会の中でどのように生きていくのか、過去から現代に至るまで人間がどのような倫理基準をもって生きているかについて学んでいます。今、教職課程の授業を受けていますが、いじめや不登校、家庭、学校、社会の人間関係の中で傷ついて自分の中に閉じこもった生徒たちが再び生きようと思うためには、やはり人との関係が必要です。キリスト者としてどのように関わることができるのか模索中ですが、大事なことは聖書が証している神を知ること。組織神学Ⅱの授業が答えの方向性を示してくれている気がします。

2013年度 学部3年 菊地美穂子

2000 年の諸教会の歴史を学ぶ

歴史神学

組織的発展に注目します。それらの研究によって、現代教会の今後の形成のために具体的な諸指針を学ぶためです。

●歴史神学／教会史とは

歴史神学/教会史とは、歴史学という学問的ファインダーを覗き、いわば2000年にわたり世界史道路を走行してきたキリスト諸教会バスの信仰的活動の歩みと、それらの信仰・実践の総資産を撮影し点検する学科です。「歴史神学」は、主に教会バスの燃料にあたる福音理解などの神学思想史、「教会史」は、バスの車体にあたる礼拝と祭儀、教会制度や

●古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿る教会史Ⅰ～Ⅴ、教理史（選択）、世界と日本の宗教史、ラテン語（選択）などを学びます。大学院では、古代から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学びが更に深められるようコースが用意されています。

2013年度 大学院博士課程前期課程1年
加藤直樹

●「教会史特講」の授業紹介

信仰や教会の様々な歴史に触れると現代が新しく見えてきます。歴史神学は未来を見通します。

棚村教授の教会史特講では、時代や地域を異にした、数多くの神学思想（神学思想家）を学んでいます。本年度は、17世紀～20世紀の日本・欧米の資料を用い、その中に描かれている教会の姿や信仰理解を読み取っています。

さらに、この講義において特徴的な学びは、日本と欧米の資料を比較検討し、国際的な教会の関係を見出していく点です。日本にある教会は、どのように欧米の教会から信仰を継承されてきたのか、独創的な研究のひとときです。

時には軽快なジョークも飛び出し、深く楽しく教会史を学べる講義です。

牧師になるための実践的な学び

実践神学

して用いられるために「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」「教会の法と制度」の学びが必要になります。

●神の実践に参加するために

実践神学とは、もともと「牧者の学」「司牧学」と呼ばれていました。現在は「神の実践」すなわち「神の救済行動」を主題とすることを明確にするために「実践神学」と呼んでいます。牧師のつとめは、生きて働かれる「神の実践」に参加させていただくことです。「神の実践」とは「神の救済の御わざ」です。神の救済行動の中で人間が神の道具と

●召命と自己吟味の課題も

神が主導権をとってくださる時、人間が〈牧者・羊飼い〉としてたてられ、神に用いられる奇跡がおこります。一人の人間が〈牧師〉とされる「神の召命」について学び、自己吟味する課題も『実践神学』の重要な学びのひとつです。十字架の福音の伝道によって神の民を集め、神の国を待ち望む『日本伝道論』は、実践神学の主要な関心です。

2013年度 学部4年
飯島喜世恵

●「教職概論」の授業紹介

ディスカッションによって学びの課題をしっかり把握する力を養います。

「教職概論」の初回授業で配布されたのは、教授が準備されたテキストと諸資料でした。中学、高校の宗教科教職免許を取得するために必要なこの学科は、教授のレクチャー、テキスト分担箇所の学生の発表、意見交換によりなされます。

学生たちには積極的な意見交換が求められ、真に学識豊かな教授と、年齢や入学以前の背景が様々に異なる学生たちと共に学ぶクラスは楽しく、恵みに満ちています。無駄なことは何一つなく、国際的な視野の広がりの中で、見識や課題を正しく把握する力を身につける経験を重ねることができ喜んでいます。

CURRICULUM

2014年度より新カリキュラムが導入されたため、
編入学者については、一部科目の扱いに違いがあります。

学部

★必修科目　☆選択科目　＊選択必修科目　◇専攻必修科目

	1年	2年	3年	4年
学際基礎科目 神学基礎科目 外国語科目 保健体育科目	【学際基礎科目】 ＊哲学思想史 ＊キリスト教と世界史 ＊キリスト教と文学１ 世界文学 ＊キリスト教と文学２ 日本文学 ＊キリスト教と芸術１ 美術史 ＊キリスト教と芸術２ 音楽史 ＊心理学 ＊社会史 ＊法と人権１ 法学概論 ＊法と人権２ 日本国憲法 ＊宗教と社会１ デモクラシーと政治 ＊宗教と社会２ ウェーバーとトレルチ ＊精神医学とキリスト教 ＊現代の自然観 ＊生命の理解とバイオエシックス ＊保健衛生 ＊情報基礎	【神学基礎科目】 ★キリスト教通論Ⅰ・Ⅱ ★聖書通論１ 旧約通論 ★聖書通論２ 旧約時代史 ★聖書通論３ 新約通論・歴史 ★神学通論 【外国語科目】 ★英語ⅠA ★英語ⅠB ☆英語Ⅱ ☆英語実践Ⅰ・Ⅱ ★ドイツ語ⅠA ★ドイツ語ⅠB ☆ドイツ語Ⅱ 【保健体育科目】 ★体育Ⅰ・Ⅱ	１年次入学者は、原則としてこれらの科目を２年間かけて履修・修得する。 ３年次編入学者の場合、神学通論を除き、基本的にこれらの科目が認定されるが、履修を奨励している。	
専門教育科目		【聖書神学関係】 ★旧約聖書神学Ⅰ・Ⅱ ★新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ ★ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅰ 【歴史神学関係】 ★教会史Ⅰ・Ⅱ ３年次編入学者は、３年次に履修・修得する。	【聖書神学関係】 ◇ヒブル語Ⅰ・Ⅱ ☆イスラエル古代史 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅱ 【歴史神学関係】 ★教会史Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ ★宗教史Ⅰ ☆宗教史Ⅱ（編入学者は必修） 【実践神学関係】 ☆教会実習Ⅰ・Ⅱ ☆牧会心理学 ☆臨床牧会教育 ☆教会教育入門 ☆説教学入門 【古典語】 ☆ラテン語Ⅰ・Ⅱ 【神学書講読】 ＊英語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ ＊独語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ ＊英語神学書講読・組織Ⅰ・Ⅱ ＊独語神学書講読・組織Ⅰ・Ⅱ ＊英語神学書講読・組織歴史Ⅰ・Ⅱ	【聖書神学関係】 ★旧約聖書神学Ⅲ ☆旧約聖書神学Ⅳ ★旧約聖書釈義 ★新約聖書神学Ⅲ ☆新約聖書神学Ⅳ ★新約聖書釈義 ◇新約原典講読Ⅰ ☆新約原典講読Ⅱ ☆新約時代史 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅲ 【歴史神学関係】 ☆アメリカ教会史 ☆教理史Ⅰ・Ⅱ 【実践神学関係】 ★実践神学概論 ★キリスト教教育概論 【専攻間共同科目】 ☆アジア伝道論演習 【学部演習】 ＊旧約聖書学部演習 ＊新約聖書学部演習 ＊組織神学学部演習 ＊歴史神学学部演習
教職課程科目 ※教育職員免許状取得希望者対象	教職概論	教育基礎論Ⅰ・Ⅱ 宗教科教授法A・B ３年次編入学者は、３年次に履修・修得する。	心理発達と教育 道徳指導法 特別活動指導法 教育的指導と相談の研究Ⅰ・Ⅱ	教育の方法と情報技術Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習（中・高） 教育実習Ⅰ・Ⅱ

研究科（大学院）

＋ 実践神学研修課程として、原則的に必修です。

前期課程	後期課程
【聖書神学関係】 旧約聖書原典講読Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書神学特講Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書学演習Ⅰ・Ⅱ 聖書考古学 アラム語 シリア語 アッカド語 古代オリエント史Ⅰ・Ⅱ 新約聖書学特講Ⅰ・Ⅱ 新約聖書学演習 新約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ 新約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ 【組織神学関係】 組織神学特講Ⅰ・Ⅱ 組織神学特研Ⅰ・Ⅱ 組織神学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 信条学 【歴史神学関係】 教会史演習 教理史演習Ⅰ・Ⅱ 教会史特講Ⅰ・Ⅱ 教理史特講Ⅰ・Ⅱ 英国教会史 【実践神学関係】 宗教社会学演習 教会音楽 キリスト教教育特講 牧会心理学特講 牧会カウンセリング特研 キリスト教教育特研 実践神学演習 臨床牧会教育 牧会心理学 ＋礼拝学演習 ＋説教学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ＋牧会学演習 ＋総合特別講義 【専攻間共同科目】 共同演習 アジア伝道論演習 日本伝道論演習 【論文演習】 修士論文指導演習旧約神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習新約神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習組織神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習歴史神学Ⅰ・Ⅱ	【聖書神学関係】 旧約聖書神学特殊研究 旧約聖書文学特殊研究 旧約聖書原典特殊研究 聖書語学特殊研究 聖書考古学特殊研究 新約聖書神学特殊研究 新約聖書原典特殊研究 聖書解釈学特殊研究 原始キリスト教特殊研究 【組織神学関係】 教義学特殊研究 現代神学特殊研究 宗教改革神学特殊研究 現代哲学特殊研究 組織神学共同演習 キリスト教社会倫理特殊研究 【歴史神学関係】 神学史特殊研究 宗教改革史特殊研究 日本宗教思想史特殊研究 教父学特殊研究 【実践神学関係】 キリスト教教化学特殊研究 キリスト教教育特殊研究 【論文演習】 博士論文指導演習聖書神学 博士論文指導演習組織神学

FACULTY

①略歴　②研究、関心領域　③主な担当科目

芳賀 力（はが つとむ）

① 1979 年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1987 年着任、現在、教授。
② キリスト教組織神学（教義学、倫理学、弁証学）。現在『神学の小径 I —啓示への問い』、『神学の小径 II —神への問い』で、キリスト教信仰の新しい体系的考察に取り組んでいます。物語る教会を土台にした教会の教え（教理）の再構築です。③組織神学、組織神学演習など。

朴 憲郁（パク ホンウク）

① 1974 年東神大大学院卒。監理教神学大学研修。韓国イエス教長老会神学大学大学院卒。独テュービンゲン大学神学部博士課程卒（神学博士）。在日大韓基督教会正教師（現在、日本基督教団への宣教師）。1994 年着任、現在、教授。
② キリスト教教育、アジア・キリスト教伝道学、新約神学。
③ キリスト教教育概論、アジア伝道論演習、キリスト教教育特講など。

関川泰寛（せきかわ やすひろ）

① 英エディンバラ大学神学部卒。1983 年東神大大学院修士課程卒（神学修士）。日本基督教団正教師。1996 年着任、現在、教授。
② 古代教会史、教父学など。古代の教会史・教理史の研究をしています。4 世紀の正統と異端の論争、教理と礼拝や霊性との関係、キリスト論や三一論の形成など。主著に『アタナシオス神学の研究』があります。
③ 教会史、教理史演習など。

中野 実（なかの みのる）

① 1987 年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。2001 年着任、現在、教授。
② これまで信仰と歴史の関係に神学的関心を抱きつつ、史的イエス研究、福音書研究に従事。現在、ヘブライ書の研究も開始し、註解書を執筆中です。
③ 新約聖書神学、新約聖書釈義、新約聖書学特講など

パストラル・ケア担当

ウェイン・ジャンセン（Wayne Jansen）

① 米ウェスターン神学大学大学院博士課程卒（牧会学博士）。米国改革派教会正教師（現在、日本基督教団への宣教師）。2002 年着任、現在、教授。
② 学生の相談を受けるパストラル・ケア・センターの室長です。「臨床牧会教育」を担当し、受講者が自らの個人的な課題を把握することを通し、より有能な牧会者になることが目的です。
③ 牧会心理学、臨床牧会教育、教会実習など。

須田 拓（すだ たく）

① 2000年東神大大学院卒。英ケンブリッジ大学神学部留学。東神大博士課程修了（神学博士）。日本基督教団正教師。2013年着任、現在、常勤講師。② 神が三位一体のお方であることが信仰全体にどのように影響しているかや、神の御業と人間の自由の関係について、また17世紀イギリス・ピューリタン神学の現代における意義について研究しています。
③ 組織神学、組織神学学部演習、キリスト教通論など

大住雄一（おおすみ ゆういち）

① 1983 年東神大大学院卒。独ベーテル神学大学卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1990 年に着任、現在、教授。
②トーラーの解釈。旧約を読むと、律法は人を縛るものではなく、喜びであり、恵みとして讃美されています。律法とは何でしょう。教会でもその恵みを共に味わいたい。その恵みを探す研究です。
③ 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。

神代真砂実（こうじろ まさみ）

① 1987 年東神大大学院卒。英アバディーン大学神学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。1998 年着任、現在、教授。
② 教義学、特にカール・バルトの神学思想。キリスト教の信仰内容を体系的に関連づけたり、現代社会とキリスト教との関係を考える分野が専門です。「ミステリとキリスト教」ということさえ扱えます!
③ 神学通論、組織神学、組織神学演習など。

焼山満里子（やきやま まりこ）

① 1997 年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。2007 年着任、現在、准教授。
② 新約聖書、特にパウロ研究。パウロの伝道、教会形成について、またパウロ教会を中心とした初期キリスト教思想形成を研究しています。
③ 新約聖書神学、新約聖書釈義など。

教職課程担当

長山 道（ながやま みち）

① 2002年東神大大学院卒（神学修士）。現在、独ボン大学神学部博士課程在籍。日本基督教団正教師。2013年着任、現在、常勤講師。
② キリスト教教育学、組織神学。「すべてのキリスト教教育は信仰への道である」というコンセプトのもと、福音伝道としてのキリスト教教育に実践神学的・組織神学的にアプローチします。
③ 教育基礎論、独語神学書講読（組織）など

棚村重行（たなむら しげゆき）

① 1977 年東神大大学院卒。米シカゴ大学神学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。1993 年着任、現在、教授。② 19 世紀アメリカ神学思想史、19 世紀日本プロテスタント神学思想史など。2009 年に『二つの福音は波濤を越えて』を出版しました。現在は、「二つの福音は山河を越えて」というテーマで、日米神学思想一関係史の研究を続けています。2014年度には「英米日・福音主義の歴史」というゼミも開講します。霊的生活史では、三位一体の神の像とその回復を主題とし、学びを続けています。③教会史、教会史特講など。

小友 聡（おとも さとし）

① 1986 年東神大大学院卒。独ベーテル神学大学卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1999 年着任、現在、教授。
② 旧約聖書およびユダヤ教の黙示思想など。旧約聖書の中で後期の文学が研究領域。コヘレトの言葉やダニエル書など周辺的な文書から旧約（ユダヤ教）の思想や倫理を探求しています。コヘレトの言葉と黙示思想の関係に関心があります。
③ 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。

小泉 健（こいずみ けん）

① 1997 年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒（神学博士）。日本基督教団正教師。2008 年着任、現在、准教授。
② 説教学、教会建設論など。宗教改革者は教会を「御言葉の創造物」と呼びました。説教が教会を建設するとはどういうことかを、改めて探求しています。そこから教会のあらゆる営みへと課題が広がります。
③ 実践神学概論、説教学演習など。

聖書の中で子どもがどう理解されているかというテーマを神学校で見つけました

聞き手
関川泰寛
教授

日本基督教団 安行教会

田中かおる 牧師（たなか かおる）

東洋英和女学院短期大学保育科、同専攻科（保育）卒業後、東京神学大学大学院を修了。安行教会牧師として奉仕するとともに青山学院中等部、浦和ルーテル学院、聖学院大学、東洋英和女学院大学、立教女学院短期大学、藤女子大学で、非常勤講師を勤める。

関川：田中先生の献身のきっかけをまずお話しくださいますか。

田中：献身のきっかけは、保育所保育士として働いているときに、壁にぶちあたったことです。保育の現場で、カリキュラムを考えていた時に、クリスマスをカリキュラムに入れるべきかで議論になりました。わたしは、入れるべきだと主張したのですが、異なる意見の人に、きちっと説得する言葉を持たなかったことに気づきました。そこで、キリスト教についてきちんと学ばねばと考えたのがきっかけです。

関川：ということは、田中先生の献身は、まずキリスト教を学んでみたいというところから始まったのですね。

田中：いいえ、そのとき、実は教団のCコースを受験して、すでに牧師となる道を歩み始めていたのです。しかし、自分ひとりで学んだだけではだめで、やはり神学校に入って、神学の学び舎に身を置きたいと考えるようになったということです。

神学校生活で得たもの

関川：なるほど。すでに召命を与えられていたけれど、神学校で多くの学生と一緒に学んでみたいと願ったわけですね。

田中：そうなんです。わたしは、学部の2年生に編入しましたが、学びそのものは、山あり谷ありで、大変でした。でもその都度同級生と先生方に助けられました。

関川：具体的には？

田中：わたしは、入学してから結婚し、出産したので、一度休学せざるを得なくなりました。子育てしながらの神学校生活でした。学部と大学院と合計8年在学することになりました。しかし、そこで、たくさんの友人たちを与えられ、それが今財産になっています。先生方も、あきらめないで頑張るように励ましてくださいました。

神学の学び

関川：神学大学では、何を専攻されましたか。

田中：新約聖書学です。修士論文では、聖書の中で子どもがどう理解されているかをテーマにしました。それは生涯の探究のテーマにもなっています。

関川：生涯のテーマを神学校で見つけたということですね。

田中：そういうことになりますね。わたしは、マルコによる福音書10章13節以下で、イエスさまが子どもを招き、「神の国はこのような者たちのものである」と語られましたが、それを解釈するとともに、日本のキリスト教の歴史の中で、この聖書箇所が、幼児の教育にどのような影響を与えてきたかを学びました。今、わたしは、キリスト教保育という講義を大学で担当していますし、幼稚園の理事やキリスト教学校の評議員などもしていますが、いずれも、聖書が子どもについて、子どもの教育について何を語っているかを考察したことが原点になっています。

関川：教会だけでなく、教育に関わる生活は、お忙しそうですね。

田中：ええ、でも、忙しくても楽しいものです。授業を担当した生徒・学生との関係は、時として卒業後も続きます。手紙をくれたり、教会に来てくれたりもします。そういう過去から現在、未来に続く関係の構築というすばらしい経験を伝道者はすることができます。

神学校生活って、決して堅苦しいものでも陰鬱なものでもない とにかく「楽しかった！」

聞き手
小泉 健
准教授

日本基督教団 堺教会

内田 知 牧師（うちだ さとる）

高校卒業後、すぐに東京神学大学に入学。1996年に大学院を修了後、日本基督教団堺教会の伝道師に就任。1998年冬、牧師按手。伊東教会牧師などを経て、2013年から現任地へ。

小泉：どのようにして牧師になる志を与えられたのですか。

内田：父が牧師で、子どもの頃は牧師にだけはなりたくなかったんです。父は子どもが牧師になることを願っていましたが、正直、反発心しかありませんでした。でも将来何になるかを考えた時、結局牧師の姿が浮かんできたんです。両親が喜んで、いつも生き生きと教会に仕えていたからでしょうね。

小泉：いったん普通の大学に行くことは考えなかったのですか。

内田：それも考えましたよ。でも逃げ道を作りたくなかった。この道を進むのなら潔く退路を断ち、牧師以外つぶしのきかない人間にならなければ、となぜか思ってしまったんです。

小泉：実際に入学してみてどうでしたか。

内田：ぼくにとっては寮生活をしたのが大きかったですね。「東神大生活＝寮生活」と言ってもいいぐらい。寮生活がなかったらムリだったかもしれない。実際、朝起こしてもらうこともありましたし。いろんな人と出会って、教えられました。

小泉：変わった人もいたのでは。

内田：そうだったかな……。東京神学大学の学生は年齢もまちまちで、いろいろな経験をしてきているでしょ？　そんな先輩や学友に支えられ、励まされ、時には戒められ…、そういう交わりの中で育てられるんですよ。お風呂でもたくさんの話をしました。

小泉：反対につらかったことは何ですか。

内田：なんでしょうね……。もちろん勉強もありますからしんどいこともありましたが、でも学生時代を振り返ると、まず頭に浮かぶのは、とにかく「楽しかった！」ということなんですよね。先生方もやさしく、先輩たちにも可愛がってもらって、楽しい学生生活でした。神学校生活って、決して堅苦しいものでも陰鬱なものでもありませんでしたよ。

忘れられない言葉

小泉：東京神学大学を修了し、いよいよ牧師になる時は、どんな気持ちでしたか。

内田：それがね、さほど不安はなかったんです。どんな田舎に遣わされても、そこに教会があるのだから最後は大丈夫、と思っていました。神の家族としての親しい交わりがあるんですから。

小泉：父上のように、教会に仕えるのはうれしいと。

内田：忘れられない言葉があるんです。教会員のおばあちゃんが、「先生の家族は幸せになってくれないと困る。だからそのために毎日祈っている」と言ってくれたんです。この人のために、この教会のために、どんなことでもしたい！って思いますよね。牧師になって本当に幸せだと思っています。

若い人たちへ

小泉：高校を出てすぐに東京神学大学を目差す人はとても少ないんですが、そんな人へのアドバイスはありますか。

内田：若い時に献身するのはかわいそう、と見られることもあるんですよね。だけど「このためなら命をかけても惜しくない」というものに若い時から打ち込める、これほど幸いなことはありません。

小泉：生涯をかけて取り組むわざだということですね。

内田：牧師の大切な務めの一つは説教をすることですが、父が65歳くらいになって、「ようやく説教にある程度納得できるようになった」と言っていました。ぼくも説教をする者として、本当にそうだと思うんです。生涯をかけて成長していくんですよね。

STUDENT LIFE

学内礼拝

キャンパスにおける神学の学びと諸活動行事の中心に、神への信仰的応答としての礼拝がある。教師・学生・職員が皆、午前の授業の合間に捧げられる礼拝を重んじることによって、知性を生かす霊性が互いに養われ、召命共同体が形成される。

委員会

学生会を中心とする各種委員会が、運動会や修養会、愛餐会などの行事を企画・運営したり、学生ラウンジを整備したりして、学生生活を支え合う。中には複数の委員を兼任する学生もいる。また、学年を超えた交流も育まれる。

学生寮

キャンパス内には学生の自治による男子寮、女子寮がある。幅広い年齢層の学生が生活を共にし、「寮の交わりによって神学生生活が支えられた」という証言も多い。授業のある日の朝には寮拝があり、寮生が交代で奨励を担当する。

クラス

学年ごとに「クラス」がある。クラスには担任教員がおり、週に1度のクラス別祈祷会で共に祈り、共に学び、助け合う。卒業後も交流は続き、キリストに呼び集められた同労者として、長く支え合う牧師たちも多い。

2014 入学式

日本伝道を担う青年の集い

クリスマス愛餐会

2013年度卒業生

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

4月 入学式・宣誓式／オリエンテーション／クラス別懇談会
5月 全学懇談会／学生総会／運動会
6月 博士課程後期課程研究発表会

入学すると始まる"神学する生活"

神学は"学ぶ"だけではなく"神学する"もの。その本質は、講義や実習、独習に限らず、寝食を含む生活場面すべてにおいて神の真理を追究し、ときに情熱的あるいは理論的に、日々格闘する神学に励む。

運動会

7月 夏期伝道実習オリエンテーション／夏期伝道実習壮行祈祷会
8月 夏期伝道実習
9月 夏期伝道実習報告会／修士論文提出締切
日本伝道を担う青年の集い

夏期伝道実習

学部4年次と大学院1年次の夏に、約4週間にわたって行われる必修プログラム。学生は全国各地の教会に遣わされ、牧師の指導のもと、説教や聖書研究、祈祷会の奨励など、様々な奉仕をしながら伝道者としての日常を学ぶ。

日本伝道を担う青年の集い

献身を考えている若い世代を対象に、毎年9月の第4土曜日に開催される集い。開会礼拝に始まり様々なテーマによる分団でのディスカッション、模擬授業、先輩伝道者の「証し」などがあり、神学校生活の一端を体験することができる。

10月 神学校日・説教奉仕
11月 全学修養会
12月 オープンキャンパス
クリスマス礼拝／クリスマス愛餐会

神学校日

毎年10月の第2日曜日（派遣先の教会によって異なる場合もある）、神学生および教師が全国各地の教会に派遣されて説教奉仕を行う。同時に、祈りと献金によって東京神学大学を支えてくださる諸教会に改めて感謝する機会でもある。

ラウンジでの交わり

1月 教職セミナー
2月 アジア伝道研修旅行（隔年）
3月 卒業礼拝／卒業・修了式

アジア伝道研修旅行

アジア諸国のキリスト教文化や歴史、課題を授業で学び、現地を訪れてそれらを体得する研修旅行です。今年は香港・広州・深セン・マカオの教会や神学校などを訪ね、豊かな交流と学びの時を与えられました。中国のキリスト教の急速な成長の背景に、困難な状況の中で主により頼み祈り続け、聖霊の導きの中で伝道をする姿がありました。全身全霊をもって主に仕える隣国の教会との関わりの中で、日本の伝道について新たなヴィジョンを持つ貴重な経験となりました。（大学院2年 佐藤 愛）

東京神学大学後援会の働き

東京神学大学に入学した神学生は、日本基督教団をはじめ各教団・教派の教職・信徒の皆さんの大いなる期待と夢を担って歩み出され、同時に背後で支えられていることにも気づきます。具体的な現れは、後援会という組織を通して、日本全国にある教会やキリスト教の学校・諸団体や教職・信徒の皆さんから寄せられる様々な形の献金・寄付金です。

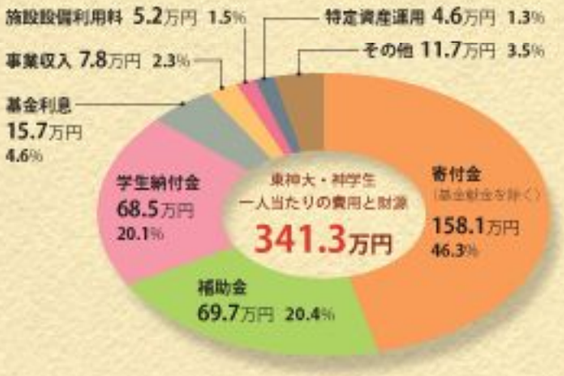
東神大を支える後援活動は学校の発足と合わせて始められ、次第に組織化が進み規模も拡大して、最近では大学の年間収入のほぼ半分を賄っています。この負担率は欧米の大学のそれにまでには及ばないものの、日本国内の他の大学のそれと比べれば跳びぬけて高い率です。神学校の特別な体質と言ってもよいでしょう。

しかし、これは決して危惧することではありません。学校開設当時から教会の教職・信徒の皆さんが、神学校の働きのために祈り支えようとされている、その息遣いがここに現われているのです。教会と神学校とは正に車の両輪です。

東神大の後援会は日本基督教団の教区にほぼ対応した形で、地域ごとに地区後援会を組織し、教会・信徒の皆さんに献金を呼びかけております。特に2007年からは10年計画を立て一層の拡充を図る運動を進めており、大きな目標としてこの期間内に年間の献金・寄付金歳入を58パーセントまで伸ばすことを目指しています。地区後援会では、随時、講演会や報告会、また夏には神学生の夏期伝道実習生の受け入れに関する支援も行っております。

支援者の皆様には、東神大を一層身近に覚えていただき、祈り、かつご協力いただけるよう願っています。

後援会長 銀座教会信徒 岩澤 嵩



東京神学大学

〒181-0015　東京都三鷹市大沢 3-10-30
TEL: 0422-32-4185
FAX: 0422-33-0667
E-mail: tuts@tuts.ac.jp
URL http: //www.tuts.ac.jp/

東京神学大学では毎年11月・2月・3月に入学試験を行います。
学生募集要項の請求やお問い合わせは、教務課入試係まで。

●JR中央線 武蔵境駅南口　小田急バス
2番乗場　境93系統「国際基督教大学」
3番乗場　境91系統「狛江駅北口」
4番乗場　吉01系統「吉祥寺駅」いずれも『西野』下車 徒歩5分
●JR中央線 三鷹駅南口　小田急バス
2番乗場　鷹51系統「国際基督教大学」「調布駅北口」、
「武蔵小金井駅南口」いずれも『西野』下車 徒歩5分